横田の動物診療所　家族たちをケア

Yokota's Vet taking care of family

January 9, 2016

By Senior Airman David C. Danford
374th Airlift Wing Public Affairs

アメリカ独立戦争の頃から、米軍は獣医を必要としていた。1916年6月3日まで、米陸軍獣医部隊は正式に設立されていなかったが、ジョージ・ワシントン大陸軍総司令官は、獣医の有用性を認め、1776年に蹄鉄工（蹄の専門技術師）を持つ騎兵隊連隊を立ち上げる指令を出した。1980年3月31日をもって、陸軍は国防総省全体における獣医サービスの執行機関となった。

第374憲兵中隊軍用犬ベンジョーの肺活量を測るアマンダ・ハウク大尉

横田基地の場合、動物診療所は軍用犬と馬の診療、食品検査、ペットの医療サービス、狂犬病隔離プログラムの4つの業務内容で第374空輸航空団の任務を支えている。中でも主要な任務は、第374憲兵中隊の軍用犬の健康管理および即応態勢の維持だ。診療所では、ワクチン接種や健康診断などの予防医療ケアだけでなく、薬剤調整や応急手術も行う。

「憲兵は、同中隊で働く空兵（つまり軍用犬たちも仲間なのでそう呼びます）がいつでも任務できる態勢を整え、派遣できるよう、私たちに託している」と、公衆衛生在日司令部の獣医アマンダ・ハウク米陸軍大尉は言う。「軍用犬が病気なら、他の全てのことを中断して対応する。軍用犬の健康管理は一番の優先任務であり、食品検査については時に応じて柔軟に対応できる」

最前線に配置された兵隊たちのための肉、家禽、酪農製品類の検査を経て、1890年代までには獣医の導入が検討された。細菌学、疫学、病理学、公衆衛生学において優秀な学歴を持っていることから、獣医が食品衛生管理を担うのがふさわしいと判断された。横田基地内の施設の食品検査は、第374航空医療中隊の公衆衛生課（パブリックヘルス）が行っており、検査実施回数を減らすのではなく動物診療所スタッフによる検査回数の負担を軽減している。ハウク大尉は、海外では佐世保海軍基地のマクドナルドで提供されているレタスなど、地元から米軍基地に仕入れられている食品を検査する必要があると話す。

「空軍基地ではなく陸軍駐屯地に駐在していたら、より多くの部下がいただろう」と、ハウク大尉は言う。「軍用犬とペットの診療を行う熟練した技術者に加え、食品の検査に精通した兵隊たちもいたであろう」

リレイ（犬）にワクチン接種を打つ米陸軍公衆衛生在日司令部アリー・オリバー動物看護師

陸軍に入隊する前に13年間、民間の獣医師として働きながら、ハウク大尉は付随業務と優先的任務によって、動物患者への労働が減る心の準備が出来ていた。「私は人助けが好きで、今は残念ながら思うほどペットを診れる診療所にいないので寂しい。しかし機会を得た時、私は動物を助けられることに喜びを持って任務にあたっている」と、ハウク大尉は語った。

ハウク大尉が所属する動物専門家の小さなチームは、基地内の家族に飼われているペットたちへのサービスも幅広く提供している。例えば、予防医療、救急医療のための地元の動物病院への照会、家族と一緒に異動するためのペットの健康証明書の発行、またダイエット処方がそれに含まれる。

「ペットとして飼われている動物は私の3番目の任務。私が軍用犬の健康管理をしているうちに、ペットの対応もしながら経験を積み、技術を磨くことができる」と、ハウク大尉は言う。「それは兵隊のスタッフにとって、臨床医、獣医、看護師としてのレベルを上げることにつながる」

最後は日本特有の任務で、狂犬病隔離プログラムの運営がある。入国前もしくは到着後、家庭のペットが病気に感染していないことを確認するため、ペットたちは180日のあいだ隔離される。「現在は、日本政府との間で我々側で隔離することが認められている」

と、ハウク大尉は言う。「間違いがあってはならない。これは権利ではなく、与えられている特権。課された責務を担うことが重要だ。検疫の規則が守られなければ、そうした協定も結ばれなくなるだろう」

横田の動物診療所に勤務する下士官たちは、患者と医師とを結ぶ連絡役として働きながら、病院の看護師、医療技師と同じような役割を果たす。公衆衛生在日司令部のライジュエナ・バロン陸軍動物看護師によると、動物看護師は獣医が医療処置を施す際に補佐するだけでなく、安全のために動物を抑制する手伝いも行うという。

ハウク大尉とバロン氏の仕事は少し異なるが、互いに同じ志を持っている。どちらも動物愛があり、最善を尽くして動物を助けたいと願っている。

「投薬や献身的なケアによって（動物が）回復した時は、報われた気持ちになる」とバロン氏は言う。「時には何もできないこともあるが、何かしてあげられた時、動物がまた一日生き永らえるよう助けることができた時の喜びはひとしおだ」